

肺がん手術を解説

市民50人参加しセミナー

製鉄記念
室蘭病院

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「第39回市民公開がんセミナー」が22日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、市民らが身体への負担が少ない「肺がんの完全胸腔鏡手術」などについて理解を深めていた。

市民ら約50人が耳を傾けた。長谷龍之介呼吸器外科長が、標準開胸手術、胸腔鏡補助下手術、完全胸腔鏡

手術の違いや長・短所など、「肺がんの外科的治療」について解説した。

同病院で行っている完全胸腔鏡手術について「手術傷は2・5センチが1カ所と、1センチが3、4カ所にとどまり、肋骨や呼吸に関わる筋肉も切らないため、身体への負担は少ない」と強調。回復の早さや「痛みは小さく、肋間筋を温存でき呼吸

運動の低下も少ない」と、術後肺炎の低減につながるメリットも示した。

また、「全国平均と比べ、北海道は喫煙率が高いのに、肺がんの検診受診率は

低い」「室蘭地域は全道平均よりも喫煙率はさらに高く、検診受診率も低い」などと指摘。禁煙と、肺がん検診を受診する大切さを訴えた。

(松岡秀宜)



「肺がんの完全胸腔鏡手術」について解説する長谷呼吸器外科長